

授業科目名	卒業研究 Graduation Project Arts & Roots	担当教員名	皆川嘉博、村山修二郎、藤浩志、 石倉敏明、服部浩之
時間割	集中	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「アーツ&ルーツ導入演習」「アーツ&ルーツ基礎演習」「アーツ&ルーツ応用演習」の履修を前提とする。			
<b>授業に関連するキーワード</b> ルーツ、フルドワーク、プロジェクト			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 卒業研究は4年間の集大成とする。学生自身がこれまでの専攻専門科目で学んだ技術や知見をもとに、プロジェクトの立案から作品の制作計画、調査計画、プレゼンテーション（展示計画）方法を定める。そこで、自分自身の活動に必要な計画性、実行力の基礎を築くことを目標とする。卒業後もさまざまな分野で活動をしていくための土台となる作品制作をめざす。			
<b>授業の概要</b> みずから課題を設定し、目標を実現するための方法論を獲得するため、四年間の学びを踏まえた総合的なガイダンスを実施する。卒業研究の期間に中間講評と卒業研究審査講評をおこなう。全期間を通じて、専攻所属の教員全員で指導にあたる。作品メディアはそれぞれの学生の制作テーマに適した多様なメディアを使用する。			
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス 第2-10回 研究対象の考察 第11-15回 研究対象を元にしたプロジェクトの立案と計画書の作成 第16回 プロジェクト計画のプレゼンテーション 第17-41回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映した調査・研究・作品の制作 第42回 中間講評会（作品のプレゼンテーションとディスカッション） 第43-149回 作品制作 第150回 卒業研究審査講評会			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 卒業研究の全体を通じて総合的に評価する。ただし、講評会（臨時を含む）などへの出席は必修			
<b>履修上の注意</b> 材料費が別途必要。フィールドワークを行う場合交通費などの諸経費が別途必要。 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
<b>テキスト</b> 必要に応じて資料を適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時			

授業科目名	卒業研究 Multidisciplinary Arts Graduation Project	担当教員名	島屋純晴、小田英之、岩井成昭、高嶺格、 長沢桂一、大谷有花、阿部由布子、萩原 健一
時間割	集中	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> ビジュアルアーツ演習 A, B, C に関連する。			
<b>授業に関連するキーワード</b> 表現の根拠＝コンセプト、領域の横断、複合芸術			
<b>授業の到達目標及びテーマ：</b> 卒業研究はビジュアルアーツ専攻の教育の集大成であると共に、美術作家として社会で活動するためのスタート地点と位置づける。ビジュアルアーツ演習 A～C で学んだ素材と手法・表現領域の特性と「表現の根拠」を総合し、「領域横断」と「複合芸術」に準拠した「新たな表現領域」の形成を視野に入れた作品制作を行う。この研究を通して「新たな表現領域」を作り出すことは並大抵のことではない。しかし、自身が取り組む主題に類似する先行作品を十分にリファレンスしたうえで、使用メディアや技法の知識と実践を得ること。そして、自身にとって切実な問題意識を育み、社会に向けて新たな価値観を提案できる芸術表現を到達目標とする。			
<b>授業の概要：</b> 基本的に卒業制作の授業計画は、履修生にとってビジュアルアーツ演習 A～C で習得した内容を実践するための自主的な場であることが前提であるが、特に演習 C から引き続き卒業制作までに至る計画案の提出を授業の開始に義務付けている。これを元にそれぞれの計画案に対応した素材の知識、技能のさらなる習得を実施する。また、テーマの取材やリサーチに十分な時間をかける必要がある場合、或いは個別に作品発表を希望する場合などに対し、学生の裁量を尊重し、必要なサポートを教員が行う。しかし、いずれの場合も以下の授業計画にあるガイドラインに沿った実践が望ましい。			
<b>授業計画：</b> 第 1回～第 2回 「卒業制作に向けてガイダンスと個別問題への対応協議」 第 3回～第 4回 「卒業制作計画案」の提出及び教官からのレスポンス。 第 5回～第15回 「作品の主題」、「表現の根拠＝コンセプト」の決定とメディア／素材調査。 第16回～第17回 「第一回 中間報告プレゼンテーション」：作品の主題への取り組みと進行方法を説明することで、テーマに対してより高次の意識を持つ。問題点の共有やディスカッションを行い、より広い視野を拓く。 第18回～第30回 「作品の主題」、「表現の根拠＝コンセプト」と「表現領域」「環境・場・空間」の適性の確認と思索。個別調査とドローイングやマケットの制作。素材の研究と実験。 第31回～第32回 「第二回 中間報告プレゼンテーション」：さらに具体的なりサーチの結果発表。設営を想定する環境・場・空間への働きかけを共有。 第33回～第72回 作品の制作・展示状況の記録の作成。 第73回～第75回 総合プレゼンテーションと全体講評。			
授業時間外の学習内容等 課題作成及び、展覧会等の準備において、授業外の時間を制作にあてることが前提となる。			
評価方法： 授業への取り組み(40%)、課題作品(60%)で評価する。			
<b>履修上の注意：</b>			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			

授業科目名	卒業研究 (ものづくりデザイン専攻) GraduationProject (CreativeManufacturingDesign)	担当教員名	小牟禮 尊人、安藤 康裕、今中 隆介、 山岡 惇、安藤 郁子、熊谷 晃、 瀬沼 健太郎、森 香織
時間割	集中	オフィスアワー	水曜日3限目 (木工・金工室)
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「ものづくりデザイン専攻科目」と関連している。			
<b>授業に関連するキーワード</b> 「地域資源」「文化資源」「使用感」「工芸」「プロダクトデザイン」「ものづくり」「木・漆・金属・染色・陶芸・ガラス」			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 卒業研究は4年間の集大成として位置づけ、個別作品の完成度を問う事は勿論の事、計画性、協調性、実行力、提案力などを鍛える場とし、社会的実践力の礎を築くことを目標とする。そのために学生が制作活動を総合的に把握でき、コミュニケーション能力を高める仕組みとする。ものづくりデザイン専攻としてのコンセプトでもある「使用感の充足」というテーマから導き出した、具体的提案のある作品を目指す。			
<b>授業の概要</b> 卒業研究では期間中に発表と講評（卒業研究プラン発表・卒業研究中間講評・卒業研究最終発表）を行い、プラン発表までは専攻所属の教員全員で指導にあたり、計画の骨格がまとまった段階で各自制作に入る。またグループ制作を認めるが、担当部分の明確化を要す。			
<b>授業計画</b> 第1回～5回 卒業研究ガイダンスと提出までのスケジュール説明、各自コンセプトワークを行う 第6回～10回 制作プランの確認と主担当指導教員の決定 第11回～15回 プランチェックを受けての考察と検討を行う 第16回～20回 卒業研究プラン発表：学生は作品の方向性やアイデアの展開、素材や技法、表現について考察・発表し、全専攻教員で質疑応答、意見交換を行う 第21回～30回 制作 第31回～35回 主担当指導教員による制作状況の確認と指導 第36回～40回 制作 第41回～45回 卒業研究中間講評：学生は作品の進捗状況を説明し、全専攻教員で制作途中段階における問題点の共有と、具体的な制作指導等を行う 第46回～55回 制作 第56回～60回 主担当指導教員による制作状況の確認と指導 第61回～70回 制作、発表事前準備 第71回～75回 卒業研究最終発表：学生は個別に発表し、全専攻教員で講評を行う			
<b>授業時間外の学習内容等</b> プラン発表前後は研究テーマに関する調査やエスキースの制作、スケッチ等を十分に行う。本制作に入ってから最終的な見せ方を含めた表現を念頭に、各工房にて授業時間外も制作にあてる事が前提となる。			
<b>評価方法</b> 卒業研究プラン発表 10%、卒業研究最終発表 90%とし、全専攻教員の合議により評価を行い、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 卒業研究プラン発表、中間講評、最終発表は原則として全員参加。材料費が別途必要。			
<b>テキスト</b> 必要に応じて資料を適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 各教員から紹介する。			

授業科目名	卒業研究（コミュニケーションデザイン専攻） Graduation Project Communication Design	担当教員名	官能 右泰、阪口 正太郎、 坂本 憲信、孔 鎮烈、裴 鎮奭、 水田 圭
時間割	集中	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> 統合コミュニケーションデザイン、ロゴタイプ、広告、写真、紙媒体、編集、ウェブ、IT、 ゲーム、イラストレーション、論理思考、パッケージデザイン、ブランディングデザイン、映像			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 卒業研究は、大学4年間の集大成として、独自性を認識し、研究展開する能力を身につけることを目標としている。また、卒業制作の企画、調査、検討、試作に重点を置き、プロセスを繰り返しながら研究内容を深く考察する。			
<b>授業の概要</b> この授業では、コミュニケーションデザイン演習1、2、3で体得した能力をベースに研究活動を展開する。また、コンセプト設定からデザイン提案までの全てのプロセスを自主的に活動展開するとともに、プレゼンテーション能力と感性を高めることを目的に研究活動を行う。			
<b>授業計画</b> （授業形態：複数教員による演習指導） 第1回～4回 オリエンテーション（授業計画、教材解説、卒業研究の内容） 第5回～15回 卒業テーマ探索のための情報収集、調査研究活動（学外授業を含む） 第16回～26回 情報収集・調査研究活動の結果からのテーマ検討とアイデアの展開 第27回～30回 1次中間プレゼンテーション（卒業研究テーマの発表、研究協議） 第31回～40回 卒業研究テーマの再検討と情報収集・調査研究活動 第41回～50回 再検討テーマについてのアイデアの展開と企画書の作成 第51回～54回 2次中間プレゼンテーション（卒業研究テーマの発表、研究協議） 第55回～100回 研究テーマの整理とアイデアの展開と制作活動 第101回～110回 3次中間プレゼンテーション（卒業研究発表、研究協議） 第111回～140回 アイデアの修正と整理、制作活動と出力 プレゼンテーション資料の作成と準備作業 第141回～150回 最終プレゼンテーション（卒業研究発表、質疑応答）			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 特になし。			
<b>評価方法</b> 【Aコース】授業における1次中間&2次中間プレゼンテーション（20%）、3次中間プレゼンテーション（20%）、最終プレゼンテーション&研究成果作品（60%）で評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。 【Bコース】企画制作プロセス、プレゼンテーション、提出資料、作品の4項目について、テーマ設定、研究企画の観点と思考、作品の質、研究の成果を総合的に判断する。100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> コミュニケーションデザイン専攻の学生は必修科目です。（前期に選択したコースや教員に従って、指導内容と作品や発表に求められる観点が異なる場合があります。）			
<b>テキスト</b> 授業中に資料コピーを適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 各担当教員より紹介する。			

授業科目名	卒業研究(景観デザイン専攻) Graduation Project (Landscape Design)	担当教員名	小杉 栄次郎、菅原 香織、 石山 友美、井上 宗則、 岸 健太
時間割	集中	オフィスワーカー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「景観デザイン演習1（基礎）」、「景観デザイン演習2（応用）」、「景観デザイン演習3（実践）」を前提としている。			
<b>授業に関連するキーワード</b> 景観、フィールドワーク、建築、ランドスケープ、デザイン、アートプロジェクト、ワークショップ			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 景観デザイン専攻での学びの集大成として、ランドスケープや建築のデザイン、社会批評を担うパブリックアートやドキュメントのプロジェクト、まちづくりの計画立案とそのための公共型ワークショップなど、学生一人一人が異なる多様な表現領域の制作活動に取り組み作品化します。 その際、「フィールドワーク」を重ね、自らの身体を「景観」の現場に置き、感覚・知識・経験を総動員してその場所の本質を見抜き、社会の変革を促しうる作品を目指すことを共通のテーマとします。			
<b>授業の概要</b> 学生は自ら取り組む研究の表現領域により担当教員を選択し、その担当教員と研究を進める。ただし、4週に1度開催される中間発表においてその進捗を発表し、研究内容を全専攻教員で共有し、多角的な視点によるエスキースを受けながら研究をブラッシュアップし作品化する。			
<b>授業計画。</b> 第1－5回 卒業研究テーマ発表・講評 第6－15回 担当教員とのエスキース 第16－20回 中間発表・講評 第21－35回 担当教員とのエスキース 第36－40回 中間発表・講評 第41－55回 担当教員とのエスキース 第56－60回 中間発表・講評 第61－65回 卒業研究プレゼンテーション、講評 第66－70回 作品のブラッシュアップ作業 第71－75回 卒業研究最終プレゼンテーション、最終講評			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 授業時間では教員とのエスキース指導に多くを当てるため、授業時間外の作業が見込まれている。			
<b>評価方法</b> 各課題の提出物と講評時のプレゼンテーション 90%、授業への取組態度 10%による総合評価			
<b>履修上の注意</b> 演習の進行に応じて課題の建築用途等に変更することがある。作品の材料費や現地調査などの費用は個人負担とする			
<b>テキスト</b> 授業内で必要に応じて随時紹介する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で必要に応じて随時紹介する			